

米中等の経済指標を好感し、資源関連株中心に上昇

2010年2月12日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

EUのギリシャ救済は具体策に欠け、欧州のソブリン・リスク懸念は続く

欧州株式相場は英国は続伸したものの、フランスやドイツでは反落するまちまちの展開でした。欧州連合(EU)はユーロ圏の金融安定化のため、必要に応じてギリシャの救済に協調して取り組んでいくことで合意しました。しかし、具体的な対策が示されなかったことから、EUの支援策に期待が高まっていた市場関係者の間で失望感が広がり、為替市場ではユーロが円やドルに対して続落し、株式市場でも銀行株が軟調となりました。ただし、豪中の経済指標が好感されて原油や金属などの商品先物価格が堅調に推移したことを受けて、資源関連株が上昇し、相場を下支えしました。また、予想を上回る石油大手の企業決算等も支援材料となりました。1月の豪雇用者数は前月比+5.3万人と予想を大きく上回り、失業率は5.3%と11ヵ月ぶりの水準まで改善しました。また中国でも、1月の消費者物価が前年比+1.5%と前月(+1.9%)より上げ幅を縮小してインフレ懸念が若干和らぐ一方、新規融資額が前年比+26.0%と大幅な伸びを示したことが好材料となりました。ただし、中国主要70都市の1月の住宅価格は前年比+9.5%と8ヶ月連続で上昇し、資産価格バブルが引き続き懸念されます。一方、米国株式市場は資源関連株やハイテクなどの景気敏感株主導で大幅反発となりました。トリシェECB総裁が、EUと協力してギリシャの財政について監督していく姿勢を示したことから、欧州のソブリン・リスクに対する警戒感が後退したほか、米雇用関連指標や個別企業決算なども好材料となりました。週間の新規失業保険申請件数は44万件と、予想(46.5万件)を下回る減少となったほか、予想を上回る決算や投資判断の引き上げ、M&Aなどの個別材料も追い風となりました。

各国の経済指標等を追い風に、資源関連株が相場を支える

米株高を受けて日経平均株価は資源関連株中心に100円以上上昇して始まりました。買い一巡後は、円高進行などの外部環境の不安定さから徐々に上げ幅を縮めていきました。中でも海運株の弱さが際立ちました。しかし後場に入ると、株価指数は全体的に再び騰勢を強めて上げ幅を拡大する展開となりました。中国の景気拡大期待や金融引き締め不安の後退等により、資源関連株中心に終日堅調に推移して相場を支えたほか、ガラス大手などの予想を上回る好決算も好材料となりました。また足元で下げがきつかった銘柄には押し目買いが入り、相場を支えました。大引けにかけて先物主導で上げ幅を拡大したことから、結局、日経平均株価は終値で4営業日ぶりに10,000円台を回復し、本日の高値水準で引けました。値上がり銘柄数は1,000を超えたものの、出来高は依然として少なく、様子見姿勢が強い中での上昇でした。

EUによるギリシャ救済に対する不透明感が依然として市場全体の懸念材料となっています。ユーロは様々な報道に振られる不安定な状態が続いており、欧州のソブリン・リスクに対する投資家の不安の大きさが窺えます。不安定な外部環境は円の上昇圧力につながるため、今週の日本株もこれらの外部環境に左右される相場展開でした。欧州のソブリン・リスクについては、今後何らかの対策が打ち出されることによって過度の悲観が後退し、徐々にリスク選好の動きが回復してくることが期待されますが、不安定な外部環境が続く間は、しばらく日本株の上値を重くする要因となりそうです。

以上